３　本時の学習（４／６）

※目標は全観点書き，本時，特に評価する項目は太字で記載する。

* 1. 本時の目標 **・その行い方を理解するとともに，リズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。【知識及び技能】**

・自己の能力に適した課題の解決の仕方，競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。【思考力，判断力，表現力等】

※目標の観点は，「知識及び技能」 「思考力，判断力，表現力等」 「学びに向かう力，人間性等」だが，体つくり運動領域では「知識及び運動」とする。

　　　　　　　 ・運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，勝敗を受け入れたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすることができる。【学びに向かう力，人間性等】

* 1. 準備　めあて板　ケンステップ　ミニハードル　コーン　メジャー　とんぼ　わたしたちの体育　振り返りボード　ワークシート　ipad

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動  児童のつぶやき  言葉かけ・教え合い  核となる言葉かけ | 教師の支援（○，吹き出し）と評価★ |
| **１　場の準備をし，やってみよう（にこにこタイム）で予備運動を行う。（５分）**  最後にスピードが遅くなっている。  **２　本時のめあてを確認する。（５分）**  ※「児童のつぶやき」は，想定されるつまずきや困り感，次なる活動（めあて）への意欲等を書く。また，児童に期待する単元における体育の見方，考え方に繋がる言葉には，〈する〉，〈見〉，〈支〉，〈知〉を記載する。  ※「言葉かけ・教え合い」は，それを克服するような文言を書く。  大股になっている。  小股になっている。  遠くに跳べないときの助走ってどんな感じ？  **力強く踏み切れる助走のコツをつかもう。**  **３　運動のポイントを確認し，類似の動き（アナロゴン）を経験する。（１３分）**  ※本時の目標（特に評価する項目），めあて，評価の整合性を確認する。なお，特に評価する項目が２つある場合には，それらを網羅するようなめあてを設定することが望ましい。  友達のリズムを言葉で表してみよう。  **◯ミニハードル連続ジャンプ**  リズムは上がるけど，スピードがあがらないな。  リズムよく跳べないな。  タ・タ・ターンのリズムが跳びやすいな。【する】  タ・タ・ターンのリズムで跳んでみて。【支】  踏切でスピードがいちばん速くなるようにしよう。【する】  最後が小股になっているよ。ipadでとってあげる。【み・支】    友達のリズムを声に出して言ってあげよう。  ４～５ｍ  徐々に体を起こしながら走るといいね。  **◯リズムアップ助走**    スタートは強く地面をおして走ってみよう。  ※「技能的な言葉かけ」は，しっかりと検討・吟味する。  ４ｍ  ※「核となる言葉かけ」は，その時間の核となる学習内容に照らし合わせ，児童の思考力を促し，言語活動に結びつくような言葉を検討・吟味する。  **４　やってみた感じを話し合う。（５分）**  高跳びやハードルと同じでタ・タ・ターンのリズムがよかった【知】  始めは地面を力強くけって，最後は素早くける感じがいいよ。【する】  助走の力加減を言葉で表すとどんな感じ？  **５　つかんだコツを生かして，跳んでみる。（１０分）**  リズムアップ走みたいに最後にリズムが早くなるように助走してみて。【支】    助走のどんなことを意識して跳んだかな？  だんだんリズムが上がっていていいよ。【見】  ※指導案中には，技能のポイントとなるようなイラストを積極的に活用する。「わたしたちの体育」のものが適切。  **６　ふり返りタイム・片付け（７分）　ふり返り板をもとに，自分や友だちができるようになったことを話し合い，ふり返りカードに記入。**  次は自分の課題にあった練習をしてみよう。  友だちのアドバイスがわかりやすかった。  力強く跳ぶ助走のコツは徐々にリズムを上げるといいことがわかった  もっと遠くに跳びたいな | ○ホワイトボードに本時の活動を掲示し，学習の見通しを持たせる。  ○遠くに跳べないときの助走を想起させ，どのような助走がいいのかという点に着目させる。  ◯助走の最後がどのような動きになっているのかが大切なことに気づかせる。  ○よい動きをしている児童に対して，どのような感じで動いているのか尋ね，言語化できるように支援する。  ○友だちにアドバイスしたり，励ましの声かけをしたりしている児童や意欲的に運動に取り組んでいる児童へ積極的に賞賛する。  ★【思考・判断・表現】  ◯できるだけ高いスピードを保ったまま，リズムをあげるように助言する。  ○児童へどんなことを考えていたのか，なぜ動きの質が高まったのかなどを尋ね，児童に考えさせるように促す。  ◯感じを出し合い，自分と共通する感じや異なる感じを持っている友だちがいることに気づかせる。  ◯跳んだ児童にどんな感じで助走をしたのか聞き，感覚を言語化していく。  ★リズミカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。【知識・技能】  ★【主体的に学習に取り組む態度】  ◯友達のコツを意識して跳んでみるように促す。  ※本時，特に評価する項目でないものも，どの場面で評価を意識しているか★【○○】として記載する。  ◯本時のめあてに対するできばえ，友達とのいい関わり方の観点から振り返りを行う。  ○次時のめあてを確認する。  ※評価の観点は，「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」だが，体つくり運動領域では「知識・運動」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」とする。 |

* 1. 展開